

新たな総合計画素案と会議でいただいた意見について

	基本構想素案	市民検討会議・有識者会議の主な意見
<p>趣旨・目的</p> <p>川崎市は、<b>多摩川や多摩丘陵などの自然</b>や、地域に根付いた文化やスポーツ、京浜臨海部の一翼を担ってきた産業の集積、交通・物流の利便性などの特色を持つ、首都圏の大都市として存在感を増しています。歴史を振り返ると、先人たちは、さまざまな苦難を乗り越えてきました。戦災や、<b>急激な経済成長の過程で直面した深刻な公害問題</b>、右肩上がりの経済成長の終焉など、これまで直面してきたさまざまな困難な局面において、知恵と工夫をもって挑み、乗り越え、ピンチをチャンスに転換して発展を成し遂げてきました。この挑み続ける精神こそが川崎の強みであり、この強固な基盤のもとに、音楽や文化、スポーツなどに彩られた、利便性の高い生活都市として、また、脈々と受け継がれてきたものづくり産業の伝統や、人口減少及び超高齢化という状況下においても成長が見込まれる、<b>生命科学・医療技術、環境、福祉などの新たな産業が息づく都市として</b>、生き生きと発展を続けています。</p> <p>その結果、市民が抱く川崎のイメージは、かつての「公害のまち」といったマイナスのイメージから、「住みやすく、活力にあふれたまち」といったプラスのイメージへと大きく変わってきています。</p> <p>一方で、我が国は、長く続く低成長や超高齢社会の到来により、国・地方を通じた財政状況の悪化と生産年齢人口の減少というかつてない困難に直面しており、これは、政令指定都市の中では比較的市民の平均年齢が若い都市である川崎市においても、<b>今後の30年程度を展望したときに避けて通れない課題</b>となっています。</p> <p>こうした局面において、これまで幾多の困難を乗り越えてきた川崎市の役割と責任は、ますます重要性を増しており、<b>その伝統と精神を継承しながら、世界に冠たる技術や人材</b>など、これまで蓄えた<b>市民や企業・研究機関・行政等が持つかけがえのない財産を活かして</b>、更なる<b>持続的な発展</b>に向けて、<b>社会全体で挑戦</b>し続けなければなりません。</p> <p>このような思いのもと、ここに、川崎市がめざす都市像及びまちづくりの基本目標を掲げるとともに、地域の力を結集し、将来に向けてまちづくりに取り組みます。</p>	<p>〔市民検討会議〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>多様な主体間の連携と交流により地域の力を高める</b> &lt;キーワード：「世代」「場づくり・きっかけづくり」&gt; (「年齢などの違いを越えて多様な市民の参加を促進するとともに、多様な市民が参加する地域コミュニティの活力を再生することが必要」「高齢者と子ども・若者をつなぐ世代を越えた関係づくりが必要」「家庭・地域・行政がそれぞれの役割を果たしながら、大学や民間の企業など多様な主体と連携して取組を進めることが必要」など)</li> <li>● <b>先を見据えた、プライオリティを意識したまちづくり</b> &lt;キーワード：「プライオリティ」「長期展望」「ライフステージ」&gt; (「20年後、30年後を意識したまちづくりが重要」「住まいは長期的に捉えると、ライフステージに合わせた住み替えが重要」「税金増加等の費用対効果を意識して、事業に優先順位をつけることが必要。」)</li> <li>● <b>家庭で教え、地域や多世代で支える「伴走型」の環境づくり</b> &lt;キーワード：「伴走」&gt; (「子育てしている親や子どもに寄り添って「伴走」するような地域や行政が支えるしくみづくりが重要である。」など)</li> <li>● <b>元気な高齢者の出番を創り、地域の人材や資源を有効活用する</b> &lt;キーワード：「出番」「メリットと見える化」&gt; (「元気な高齢者のスキルや経験が発揮できる出番を地域で創出することや、社会的な担う役割をつくること、取組の効果・メリットが見える化していくことが必要である。」「市内の自然や既存の地域資源など、川崎のポテンシャルを最大限に活用し、他都市では真似のできない、川崎市ならではの魅力を創り出していくことが重要」など)</li> </ul> <p>〔有識者会議〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>多摩川や大規模緑地等の存在効用</b> (「首都圏においても重要なみどりである多摩川や多摩丘陵など先人たちが残した地域資源や風格ある景観を守っていくことが大事である」など)</li> <li>● <b>人口減少を見据えた持続可能な総合計画の必要性</b> (「人口減を前提とした総合計画にすることが必要」「住民の視点に立って、大胆な思考転換が必要」「バラ色の未来でなくとも、市民一人一人の希望がある計画創るべき」など)</li> <li>● <b>ダイバーシティ(多様性)の実現と寛容性</b> (意識をバリアフリー化するためには、障害者が格好よく社会に出ることができ、違和感なく健常者と障害者が混じり合うことが重要)「ダイバーシティの実現には、トランス(寛容さ)が必要」など)</li> <li>● <b>社会的役割の付与と活動成果の社会還元による高齢者の健康づくり</b> (「元気な高齢者をどのように増やしていくのか示す必要がある。高齢者は社会的な役割や何か取り組むべきことがあれば内発的に健康になる。その活動成果や参加意欲を社会に還元する政策も非常に大事である」など)</li> <li>● <b>「地域包括ケアシステムの構築」には、首長や関係者の理念の共有と覚悟</b> (「地域包括ケアシステムの構築には、市民、行政、医療・介護関係者などの理念の共有とそれぞれがシステムの一員としての覚悟が必要。人材等の地域資源など地域の実情に合わせたしくみづくりをすることが必要である)「子どもから高齢者まで、川崎に関わるすべての人について、川崎で暮らすことができるよう共生支援が必要」など)</li> <li>● <b>川崎に定住する市民と一時的に住む市民のそれぞれを大切に必要性</b> (「川崎市は人口の流入が多いが、都市の活気を生む大事な要素の一つであり、定住市民ばかりでなく、若い間だけ川崎で暮らす人や昼間に川崎で働く人なども大事にし、市外にも川崎の応援団を増やすことが重要」など)</li> <li>● <b>環境・医療・福祉・環境など、将来の成長産業分野におけるイノベーションの推進</b> (「超成熟社会の中においては、環境・エネルギー分野やヘルスケア分野などにおけるイノベーションが重要)「公害を克服した実績を持つ川崎市として、先端技術を有する市内企業との連携により、環境技術を学ぶなら川崎市となるようなモデルを考え、世界に発信していくべき」など。)</li> <li>● <b>ライフスタイルクリエーションの重要性</b> (「産業界には、ライフスタイルをクリエイト(創造)できるようなイノベーション、いわば「ライフスタイルクリエーション」が重要で、そのためには、川崎市の産業シーズをツール化し、システム化する仕組みができるとうい」など)</li> <li>● <b>最幸のまちは</b> (「人が生きていく中で必要とされ、役割があると実感できる社会が求められる)「豊かさの拡大は限界であり、個人が豊かさを深め、それを実感できること(自己実現)、豊かさに対する価値観を転換することが重要」など)</li> </ul>	
<p>めざす都市像 「成長と成熟の調和による持続可能な最幸のまち かわさき」</p> <p>まちづくりの基本目標 「安心のふるさとづくり」「力強い産業都市づくり」</p> <p>めざす都市像とまちづくりの基本目標</p> <p>市民が幸せに暮らし続けるためには、心のよりどころとなる「安心のふるさとづくり」を進めていく必要があります。安心のふるさととは、子どもたちの笑顔があふれ、<b>元気な高齢者をはじめとした誰もが、多様な生き方や考え方を寛容に認め合いながら、寄り添い、支え合い、社会に貢献することで生きがいを持ち、日常生活の質的な充足や郷土への愛着と誇り</b>を強く感じることができる成熟したまちです。</p> <p>こうしたまちづくりを進めるには、市民が主体となったさまざまな取組に加えて、必要な市民サービスを将来にわたって安定的に提供していく必要があります。そのためには、<b>自助・共助(互助)・公助のバランスのとれた地域運営</b>を進めるとともに、川崎市が持続的に成長していくことが不可欠です。</p> <p>これまで築いてきた産業の集積や、<b>首都圏の中心に位置する恵まれた立地条件などのポテンシャルを活かして、今後成長が見込まれる分野の産業振興</b>をさらに進めます。また、<b>暮らしの質を向上させるような新たな価値を、企業・団体などの多様な主体と共に創造</b>するなど、地域経済の活性化を図りながら、環境問題をはじめとする国際的な課題解決へ貢献し、我が国の持続的な成長を牽引する「力強い産業都市づくり」を進めます。</p> <p>このように、<b>成長と成熟が調和した持続的な発展</b>を通じて、我が国、アジア、世界の平和と繁栄に貢献し、<b>誰もが幸せを感じられる</b>川崎をめざしたまちづくりを進めるとともに、この素晴らしいまちを、未来を担う子どもたちに引き継いでいきます。</p>		

柱	基本構想素案(1層)	2層番号	基本計画素案(2層)	市民検討会議・有識者会議の主な意見
1	生命を守り生き生きと暮らすことができるまちづくり	1-1	災害から生命を守る	<p>〔市民検討会議〕</p> <p>● <b>自分の身は自分で守る</b> &lt;キーワード:「自ら守る」「備える」&gt;  (「事前に備蓄や電源の確保、避難場所の確認をしておく」「家庭での情報共有する」「川崎へ仕事で来ている人への企業の防災対策も重要」など)</p> <p>● <b>地域での情報共有・助け合いの体制づくり</b> &lt;キーワード:「若手」「リーダー」「改革」「届ける」「普及」「アナログ」&gt;  (「地域におけるリーダーの育成や災害弱者の支援を図るべき」「普段から近所のコミュニケーションを工夫し、どこに誰がいるのかわかるようにしておく」「自主防災組織等に若い人を巻き込むことが必要」「オフラインでもきちんと情報が届くなど、情報が上手く伝わるしくみが必要」など)</p> <p>〔有識者会議〕</p> <p>● <b>他都市との連携</b>  (「多摩川沿いの自治体などとの都県境を越えた広域連携により、災害発生時に適切な役割分担やリスク分散を図ることができるよう、日頃からよく協議しておくべき」など)</p> <p>● <b>日頃からの顔の見える関係づくり</b>  (「阪神・淡路大震災では97%が自助・共助で助けられている。職場、学校、地域などにおいて、日頃から顔が見える関係を築くことが重要」「災害発生時に備え、広域的に連携するとともに日頃からよく協議しておくべき」など)</p>
		1-2	安全に暮らせるまちをつくる	<p>〔市民検討会議〕</p> <p>● <b>交通ルール・マナーを徹底し、モラルを向上</b> &lt;キーワード:「マナー」「意識向上」&gt;  (「高齢者が増加するなか、ルールやマナーの徹底は、安全に関わるとても重要な概念である。」「市民一人ひとりが意識の向上を心掛けることが必要。」)</p> <p>〔有識者会議〕</p> <p>● <b>自転車利用における、ルール遵守やマナーの向上</b>  (「自転車専用レーンを整備しても、利用者がルールを守らなかつたり、利用しなかつたりするケースが多いので、ルール遵守やマナーの向上に取り組むことは重要」など)</p> <p>● <b>ダイバーシティ(多様性)の実現と寛容性</b>  (「意識をバリアフリー化するためには、障害者が格好よく社会に出ることができ、違和感なく健常者と障害者が混じり合うことが重要」「ダイバーシティの実現には、トランス(寛容さ)が必要」など)</p>
		1-3	水の安定した供給・循環を支える	
			<p>■水道と下水道は、市民生活に欠くことのできない生活基盤となっています。今後想定される大規模地震や、近年の気候変動による集中豪雨などに備えつつ、水道と下水道が将来にわたりしっかりと機能するよう、施設の耐震化や老朽化した施設の更新などを計画的に進める必要があります。今後も、市民生活をしっかりと支えるため、安全でおいしい水道水を安定的に供給し、使った水はきれいに川や海に戻すという水循環や、まちを大雨から守るといった大切な役割を果たす、上下水道機能の形成に取り組みます。</p>	

柱	基本構想素案(1層)	2層番号	基本計画素案(2層)	市民検討会議・有識者会議の主な意見
1	生命を守り生き生きと暮らすことができるまちづくり	1-4	誰もが安心して暮らせる地域のつながり・しくみをつくる	
	<p>また、超高齢社会にあっても、高齢者や障害者など、誰もが<b>個人としての自立と尊厳を保ちながら、住み慣れた地域で、生涯にわたりいきいきとすこやかに暮らせる</b>まちづくりを進めます。</p>		<p>■ひとり暮らしや認知症の高齢者、障害のある高齢者が増加するなど、地域生活を取り巻く状況は急速に変化しています。このような中で、<b>市民の健康寿命の延伸</b>をめざすとともに、<b>保健・医療・福祉・住まい等の関係機関の連携を強化</b>することや、<b>地域のさまざまな主体が、世代を越えて、支え合い、助け合うこと</b>で、<b>高齢者や障害者をはじめとした誰もが、役割と生きがいを持ち、住み慣れた地域や自らが望む場で生涯にわたって安心して暮らし続けられるしくみづくり</b>を進めます。</p>	<p>〔市民検討会議〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>元気な高齢者の出番を創出する地域づくり</b> &lt;キーワード：「出番」「場づくり・きっかけづくり」「メリットと見える化」&gt;  「元気な高齢者のスキルや経験が発揮できる出番を地域で創出することや、社会的な担う役割をつくること、取組の効果・メリットが見える化していくことが必要である。」など</li> <li>● <b>日頃からの関係づくり</b> &lt;キーワード：「情報の共有」「人間関係」&gt;  「支援が必要になる前からの関係づくりが重要。個人情報保護の壁があるからこそ、日頃からのコミュニケーションが大切である。」など</li> </ul> <p>〔有識者会議〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>「地域包括ケアシステムの構築」には、首長や関係者の理念の共有と覚悟</b>  「地域包括ケアシステムの構築には、市民、行政、医療・介護関係者などの理念の共有とそれぞれがシステムの一員としての覚悟が必要。人材等の地域資源など地域の実情に合わせたしくみづくりをすることが必要である」「子どもから高齢者まで、川崎に関わるすべての人について、川崎で暮らすことができるよう共生支援が必要」「高齢者等の権利擁護が必要」など</li> <li>● <b>社会的役割（生きがい）の付与と活動成果の社会還元による高齢者の健康づくり</b>  「負担と給付の問題ではなく、元気な高齢者をどのように増やしていくのか示す必要がある。高齢者は社会的な役割や何か取り組むべきことがあれば内発的に健康になる。その活動成果や参加意欲を社会に還元する政策も非常に大事である」など</li> <li>● <b>持続可能で、安心して介護サービスを利用できる新たなしくみづくり</b>  「介護サービス提供事業者のケアにより、要介護度の維持・改善を図った場合の適正な評価を行う「健幸福寿プロジェクト」の取組は、川崎モデルとして進めていくべき」など</li> </ul>
		1-5	確かな暮らしを支える	
			<p>■高齢化の進展に伴い、医療や福祉における社会保障費は増加傾向にあり、今後も厳しい財政状況が見込まれることから、持続可能な社会保障制度の運営が求められています。市民生活を送る上での確かな安心を支える給付制度の運営を維持するとともに、失業や病気などにより、生活の維持が困難になった人に対し、生活保護などの社会保障制度をはじめとしたセーフティネットをしっかりと維持し、市民の暮らしの安心を保障します。</p>	
		1-6	病気や怪我から市民の健康と安全を守る	
			<p>■高齢者の増加、慢性疾患を中心とした疾病構造の変化、医療の高度化等により、市民の医療ニーズが増加するとともに多様化しています。地域における医療機関相互の機能分担と連携を図り、良質かつ適切な医療を効果的に提供できる体制づくりや、救急医療体制の充実により、すべての市民のすこやかな生活を支えます。</p>	

柱	基本構想素案(1層)	2層番号	基本計画素案(2層)	市民検討会議・有識者会議の主な意見
2	<p>子どもを安心して育てることのできるふるさとづくり</p> <p>子どもや若者が、夢や希望を抱いて、安心して生きていける社会の実現のために、出産・子育てから、子どもの成長・発達の段階に応じた「切れ目のない」支援を進めるとともに、<b>子どもや、子育て家庭に寄り添い、共に、幸せに暮らすことができる地域づくり</b>を進めます。</p> <p>また、未来を担う子どもたちが、乳幼児期には、情緒の安定とともに、他者への愛着や信頼感を醸成し、学齢期には、<b>社会の中で自立して主体的な人生を送る基礎を築く</b>とともに、個人や社会の多様性を尊重し、<b>共に支え</b>、高めあいながら成長し、<b>若者として社会に力強く羽ばたいていく姿を市民が実感</b>できるような社会をめざします。</p> <p>さらに、生涯を通じた、市民の学びや活動を支援することで、それぞれの市民が持つ経験や能力が<b>地域の中でつながり、さまざまな世代が交流しながら、社会的な役割として活かされるような環境づくり</b>を進めます。</p>	2-1	<p>安心して子育てできる環境をつくる</p> <p>■本市の社会状況や子どもを取り巻く家庭・地域の環境が変化中、子育てに不安や負担を感じる家庭も多く、子どもが健やかに成長し、若者が社会で自立して暮らせるよう、安心して子育てできる環境づくりが求められています。そのため、<b>子育て家庭を地域社会全体で支え</b>、不安感や負担感を軽減するとともに、すべての子どもが、<b>地域で安心してすこやかに成長できるしくみづくり</b>を進めます。</p>	<p>〔市民検討会議〕</p> <p>●<b>家庭で教え、地域や多世代で支える「伴走型」の環境づくり</b>＜キーワード：「伴走」＞  （「子育てしている親や子どもに寄り添って、その多様な状況に応じて「伴走」するような地域や行政が支えるしくみづくりが重要である。」など）</p> <p>●<b>子どものころから働くよろこびをリアルに感じられる学びの機会づくり</b>＜キーワード：「場づくり」「実感・リアル」＞  （「働く喜びや仕事に対するやりがいを見つける機会をつくるため、働くことをリアルに感じる情報提供や体験機会が必要であり、家庭・地域・行政が横断的に取り組む必要がある。」など）</p> <p>【再掲】<b>元気な高齢者の出番を創出する地域づくり</b>＜キーワード：「出番」「場づくり・きっかけづくり」「メリットと見える化」＞  （「元気な高齢者のスキルや経験が発揮できる出番を地域で創出することや、社会的な担う役割をつくること、取組の効果・メリットが見える化していくことが必要である。」など）</p> <p>〔有識者会議〕</p> <p>●<b>社会全体で子どもを育てるしくみづくり</b>  （「社会全体で子どもを育てる観点から元気な高齢者の活用や多世代交流の場づくり、男性が育児休暇を取得できる環境づくりを進めていくことが重要である」など）</p> <p>●<b>地域の力を活用した子育て支援</b>  （「小学校1年生の子どもはまだ手がかかるので、「地域の寺子屋事業」のように地域の互助の力を活用しながら、母親の支援をすることができるとよい」など）</p> <p>【再掲】<b>社会的役割（生きがい）の付与と活動成果の社会還元による高齢者の健康づくり</b>  （「負担と給付の問題ではなく、元気な高齢者をどのように増やしていくのか示す必要がある。高齢者は社会的な役割や何か取り組むべきことがあれば内発的に健康になる。その活動成果や参加意欲を社会に還元する政策も非常に大事である」など）</p>
		2-2	<p>未来を担う人材を育成する</p> <p>■若者の不安定な雇用状況をはじめとして、今、子どもたちは、自分の将来を描きにくい状況にあります。こうした中で、誰もが多様な個性、能力を伸ばし、<b>夢や目標に向かって充実した人生を切り拓いていくことができるよう、学ぶ意欲</b>を大切にしながら、<b>授けられた社会的自立に必要な能力・態度を養います</b>。</p> <p>また、誰もが個人や社会の多様性を尊重しながら、それぞれの強みを活かし、<b>共に支え</b>、高め合える社会をめざして、共生・協働の精神を育みます。</p>	
		2-3	<p>生涯を通じて学び成長する</p> <p>■家族やコミュニティのつながりの希薄化が指摘される現代においては、これまでのつながりの強化に加えて、<b>新たな絆づくり</b>が必要とされています。市民同士や、団体同士をつなげ、「地縁」に加えて、学びを通じた「知縁」による新たな絆を創造していくとともに、<b>多世代が交流しながら、子どもたちは多くの大人との関わりの中で、自尊心や他者への信頼感、働くことの意義などを学び、シニア世代は子どもと積極的に関わり合う中で、生きがいを得る場づくり</b>等を進めます。</p>	

柱	基本構想素案(1層)	2層番号	基本計画素案(2層)	市民検討会議・有識者会議の主な意見
3	市民生活を豊かにする環境づくり	3-1	環境に配慮したしくみをつくる	
	<p>大気、緑、水、土壌、資源など、さまざまな自然の恵みは循環や再生を繰り返しながら、私たちの生命を支え続けており、生き生きとすこやかに暮らしていくためには、環境を守ることが不可欠です。</p> <p>地球温暖化や資源・エネルギー問題など地球規模での環境問題がより深刻化する中で、<b>環境変化に対して柔軟に適応</b>するとともに、市民、事業者などと協働しながら、地球や地域の環境保全を進め、健康で快適に暮らし続けることができる持続可能なまちづくりを進めます。</p> <p>また、川崎がこれまで培ってきた優れた環境技術や、<b>公害を克服する過程で得られた経験を活かして、新たな環境技術を創り出す</b>とともに、多くの市民にとって母なる川とも言える<b>多摩川や、多摩丘陵など、生活にうるおいやすらぎをもたらす市民共有の貴重な財産</b>である<b>緑を次世代に継承</b>するなど、<b>人と自然が共生する社会を、さまざまな主体と力を合わせて</b>つくりだしていきます。</p>	3-1	<p>■本市はこれまで、低炭素社会の構築に向け、<b>優れた環境技術の集積を活かし</b>ながら、市民や事業者など多様な主体との協働により、地球温暖化対策に取り組んできました。</p> <p>一方で、地球温暖化により、異常気象や生態系への影響が生じていることから、これまで取り組んできた温室効果ガスの排出抑制などの緩和策とあわせ、<b>地球温暖化による影響に対応した適応策</b>に取り組むとともに、市民や事業者などの環境意識を醸成するなど、環境に配慮したしくみづくりを推進していきます。</p>	<p>〔有識者会議〕</p> <p>●<b>世界のモデルとなる先進的な環境技術の発信</b>        (「公害を克服した実績を持つ川崎市として、先端技術を有する市内企業との連携により、環境技術を学ぶなら川崎市となるようなモデルを考え、世界に発信していくべき」など)</p> <p>●<b>適応策も含めた、地球温暖化対策の推進</b>        (「適応策は、企業や市民が取り組めることは限定的で、公助の部分が大きく、行政負担も大きくなるため、計画上の位置付けは検討が必要」など)</p> <p>●<b>生ごみの削減と都市農業の保全</b>        (「生ごみの削減に向けて、事業系ごみとともに、家庭系ごみを対象とした取組も積極的に推進したらどうか」「生ごみを活用した有機農業を推進し、都市農業の活性化と環境問題の解決を結び付けられないだろうか」など)</p>
		3-2	地域環境を守る	
		3-3	緑と水の豊かな環境をつくりだす	<p>〔市民検討会議〕</p> <p>●<b>公園の多機能化や地域での自主管理の推進</b>        (「公園など人が集まりやすい場所を多機能化したり、地域での自主管理を推進したりすることが必要。多世代で交流できる場づくりが必要である。」など)</p> <p>〔有識者会議〕</p> <p>●<b>多摩川や大規模緑地等の存在効用</b>        (「首都圏においても重要なみどりである多摩川や多摩丘陵など先人たちが残した地域資源や風格ある景観を守っていくことが大事である」など)</p> <p>●<b>多様な主体と連携した生物多様性の保全</b>        (「生物多様性は重要な視点であり、今後の人口減少社会において重要な課題であり、市民や企業及びNPO等と連携した検討を進める必要がある」など)</p> <p>●<b>公園の活用と維持管理</b>        (「公園やみどりをうまく管理・活用できると、地域のイメージがアップし、投資効果も高めることができる」「公園機能と保育所機能が上手く連携するしくみができると、双方にとってプラスになる可能性がある」「公園利用者にはさまざまな思いを持つ市民がいて、どうマネジメントしていくのか、市民と議論していくことが必要」など)</p> <p>●<b>多面的機能を踏まえた都市農業の活性化</b>        (「川崎における都市農地はレクリエーションとしての役割も期待できる。都市農業の持つ多面的機能を踏まえ、都市農業の活性化が必要である」など)</p>

柱	基本構想素案(1層)	2層番号	基本計画素案(2層)	市民検討会議・有識者会議の主な意見
4	<b>活力と魅力あふれる力強い都市づくり</b> 我が国が直面している少子高齢化やエネルギー政策の転換、地球温暖化などの課題を新産業の創出に結びつけるとともに、成長を続けるアジアをはじめ、 <b>世界と競いながら、付加価値の高い、活力ある産業の集積等を促進</b> することなどで、 <b>国際的な課題解決に貢献</b> する、環境と調和した持続可能な産業都市づくりを進めます。加えて、 <b>意欲ある人が自らの能力や個性を活かして働く</b> ことができるよう、 <b>人材育成</b> や多様な就業が可能な社会の実現をめざします。	4-1	<b>川崎の発展を支える産業の振興</b> ■新興国の急成長により国際競争が激化し、少子高齢化・人口減少による国内市場の縮小が懸念されるなど、産業を取り巻く環境は大きく変化しています。このような変化に的確に対応し、市内産業を持続的に発展させるため、成長著しいアジアの中での <b>国際競争力の強化</b> に向けた取組を推進します。また、 <b>産学交流・企業間連携の更なる深化</b> による市内企業の競争力強化をはじめとして、本市のものづくりを支える <b>中小企業の振興</b> や地域全体の賑わいを創出する商業地域の活性化、地産地消による都市農業の振興などにより、市内経済の好循環に支えられた産業の振興を図ります。	[市民検討会議] <b>【再掲】子どものころから働くよろこびをリアルに感じる学びの機会づくり</b> <キーワード：「場づくり」「実感・リアル」> (「働く喜びや仕事に対するやりがいを見つける機会をつくるため、働くことをリアルに感じる情報提供や体験機会が必要であり、家庭・地域・行政が横断的に取り組む必要がある。」など)
		4-2	<b>新たな産業の創出と革新的な技術による生活利便性の向上</b> ■高齢化の進行やICT(情報通信技術)の進展、国内外のエネルギー政策の大きな転換など、社会環境の変化を的確に捉えながら、生活の質を向上させ、 <b>新たなライフスタイルを実現</b> することをめざして取組を進めていくことが、これからは重要です。 <b>医療・福祉、エネルギーなどの新たな成長分野における川崎発のイノベーションを創出</b> するとともに、 <b>コンベンション機能の創出等によって多様で創造性のある人材の交流を促進</b> し、市内企業の競争力の向上を図ります。また、いつでもICTを使える環境や、だれでも公的機関のデータが活用できる環境を整備するなど、市民生活の更なる利便性の向上や、地域経済の活性化を図ります。	[有識者会議] <b>●医療・福祉・環境など、将来の成長産業分野におけるイノベーションの推進</b> (「超成熟社会の中においては、環境・エネルギー分野やヘルスケア分野などにおけるイノベーションが重要」「今後ICTを活用して成長する分野は、医療・教育・農業。ベンチャー企業などと新たな産業を創出していけると良い」など。)
		4-3	<b>生き生きと働き続けられる環境をつくる</b> ■10年後の平成37(2025)年には、本市も生産年齢人口が減少に転じることが見込まれており、活力ある地域経済を維持するためには、市内雇用の維持・拡大と多様な人材の活用・育成が求められています。 <b>若者や女性への就業支援・再チャレンジできるしくみづくり</b> に力を入れて取り組むほか、 <b>子どもの頃から働くよろこびや価値観をリアルに実感できる学びの機会づくり</b> など、人材の活用・育成に取り組めます。	<b>●大企業と中小企業との連携などによる、イノベーションの促進</b> (「遊休知的財産の活用やかわさき基準(KIS)の充実等によって、企業間連携を促進させることが必要である」「イノベーションを起こすことができる都市として、世界で輝く存在になる必要がある」「個業(個人で行う事業)と企業がコラボレーションできるしくみや、企業同士のネットワークが重要となる」「全国的にはまだ個別企業との連携に踏み出している自治体は少なく、川崎が積極的に企業連携している姿は先進的に映る。産業が強いという川崎市の地の利や独自の文化は大切にしていけるべき」など)
		4-4	<b>臨海部を活性化する</b> ■本市の臨海部は、石油化学・鉄鋼等の製造業やエネルギー産業に加え、 <b>ライフサイエンスなど成長分野の技術を活用した産業の高付加価値化、環境技術の集積やグローバルな人材の集積</b> 等が進んでいます。そのような状況の中で、羽田空港との近接性を活かしながら、国際競争力を有し、日本経済の発展を牽引する高度な産業集積と新産業を創出する <b>オープンイノベーションの拠点形成</b> を目指し、 <b>創造性のある人材を育成</b> しつつ、 <b>立地企業の持続的な運営支援</b> や、 <b>新技術創生につながる拠点マネジメント</b> を行います。また、環境と調和したスマートコンビナートの形成や基盤整備の推進、グローバル化の進展に対応した港湾物流機能の強化等を進めます。	<b>●グローバルな人材と創造的な人材が集まりやすい環境づくり</b> (「グローバル人材の育成が重要となる」「クリエイティブな人が集まる場所は、まちとして楽しく豊かであり、居心地が良く、じっくりものを考えられる場所である。川崎においても、アクセスが良好という強みだけにとどまらず、そういった環境を整えることが必要」など)
				<b>●若者や女性にとって働きやすい環境づくり</b> (「アメリカには再チャレンジできる風土や、成功者が多額の報酬をもらうことを認める文化があるが、日本にはチャレンジした結果の失敗を許容する文化が育っていない。イノベーションを起こすには、こういう文化も障害となっているのでは」「障がい者や子育て中の女性を対象とした雇用促進や、働きやすい職場づくりも企業による地域貢献の1つである。ダイバーシティでフレキシブルな職場づくりが必要。」)
				<b>●ライフスタイルクリエーションの重要性</b> (「産業界には、ライフスタイルをクリエイト(創造)できるようなイノベーション、いわば「ライフスタイルクリエーション」が重要で、そのためには、川崎市の産業シーズをツール化し、システム化するしくみができるとうい」など)

柱	基本構想素案(1層)	2層番号	基本計画素案(2層)	市民検討会議・有識者会議の主な意見
4	<p>活力と魅力あふれる力強い都市づくり</p> <p>首都圏における、<b>近隣都市の拠点との適切な連携のもとで</b>、それぞれの地域特性を活かし、魅力にあふれ<b>多くの人</b>が市内外から集まる広域的な拠点整備を推進するとともに、<b>まちの成熟化</b>に的確に対応し、<b>誰もが安全で安心して暮らせる身近なまちづくり</b>を進めます。</p> <p>また、これらの拠点を結び・支える<b>基幹的な道路や鉄道</b>と、自転車や徒歩も含めて、<b>少子高齢化の急速な進展などの社会状況の変化を見極めながら</b>、誰もが快適に利用できる<b>身近な交通環境の強化をバランスよく進める</b>まちづくりを基本として、<b>民間活力を活かした</b>、総合的な整備を進めます。</p>	4-5	<p>魅力ある都市拠点を整備する</p> <p>■本市では、首都圏に位置する地理的優位性を活かした商業、業務、都市型住宅等の都市機能の強化と、<b>隣接する東京都・横浜市の都市拠点と連携</b>した魅力と活力にあふれた都市拠点づくりに取り組んできました。都市基盤の整備は地域の活力や賑わい、さらには大きな経済効果を生み出すことから、今後も引き続き、臨海部の臨空・臨海都市拠点、川崎・小杉・新百合ヶ丘の広域拠点の整備を中心とした<b>広域調和型まちづくりの更なる推進</b>を図ります。また、<b>超高齢社会を見据えた</b>誰もが暮らしやすいまちづくりをめざし、複数の鉄道路線が結節する駅等を中心とした<b>利便性の高い地域生活拠点の形成を推進</b>し、魅力あるまちづくりを進めます。</p>	<p>〔市民検討会議〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>先を見据えた、プライオリティを意識したまちづくり</b> &lt;キーワード：「プライオリティ」「長期展望」「ライフステージ」&gt; (「20年後、30年後を意識したまちづくりが重要」「住まいは長期的に捉えると、ライフステージに合わせた住み替えが重要」「低コストで効果が期待できる取組を優先すべき。」「税込増加等の費用対効果を意識して、事業に優先順位をつけることが必要。」)</li> <li>● <b>限られた資源の上手な活用</b> &lt;キーワード：「シェア」「交換」&gt; (住宅や公園などの場所のシェア、住まいの等価交換は大事な概念であり、税金を使って何かやるのではなく、ニーズが同じものは「シェア」し、異なるものは「交換」というようなことが重要なのではないか。)</li> </ul> <p>〔有識者会議〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>近隣の都市拠点と連携した広域的なまちづくり</b> (「首都圏の一部として広域的なまちづくり、交通施策を推進することが不可欠」「羽田空港やリニア新幹線といった広域公共交通機関の動向を踏まえた都市基盤整備が重要」「都心から放射状に延びる鉄道路線でさえ、今後、需要が厳しくなる中で、フィーダー路線(都心環状方向の路線)については、さらに厳しい状況が想定されるため、新たな整備よりも、既存路線の維持が重要となる」など)</li> <li>● <b>近隣生活圏の利便性の向上</b> (最寄り駅や地域の拠点駅に向けた路線バス、自転車などのサービスをきめ細かく配置するなど、交通不便地域の住民の交通利便性を少しでも向上させる必要がある。市内各所の交通課題ひとつひとつに取り組んでいくことが大事で、市は交通事業者と協調・連携していく必要がある」など)</li> <li>● <b>川崎に定住する市民と一時的に住む市民のそれぞれを大切に必要性</b> (「川崎市は人口の流入が多いが、都市の活気を生む大事な要素の一つであり、東京圏全体で考えれば、芸術・産業界分野における起業家をインキュベーションする機能を担うなど、川崎だけが有している強み。定住市民ばかりでなく、若い間だけ川崎で暮らす人や、昼間に川崎で働く人なども大事にし、市外にも川崎の応援団を増やすことが重要」など)</li> </ul>
		4-6	<p>良好な都市環境の形成を推進する</p> <p>■近年、<b>生活スタイルや居住ニーズの多様化</b>などにより市民の居住環境は大きく変化しており、<b>ライフステージに合わせた</b>、より快適な暮らしを求めて「<b>住まい方</b>」に対する<b>関心が高まっています</b>。このため、誰もが暮らしやすく、うるおいのある住環境の整備に向けて、景観施策や計画的なまちづくりの推進により良好な市街地の形成を促進するとともに、<b>地域が主体的にまちの課題解決に取り組む市民主体のまちづくり</b>を推進します。</p>	
		4-7	<p>総合的な交通体系を構築する</p> <p>■本市は、地理的に交通至便な優位性を持った地域であり、<b>首都圏の交通ネットワークの円滑化</b>を図る上で大変重要な役割を担っています。一方で超高齢社会の進展は、今後の交通機関の利用形態に大きな影響を与えることが見込まれます。</p> <p>このようなことから、<b>空港や新幹線などの広域交通機関の動向を踏まえながら</b>、<b>首都圏の経済活動の活性化や市民生活の利便性の向上に大きく寄与する広域交通の円滑化</b>及び<b>地域交通環境の整備</b>など、<b>民間活力や既存施設を最大限に活用</b>し、鉄道・バス・自動車・自転車・歩行者等の<b>総合的な交通体系を構築</b>します。</p>	

柱	基本構想素案(1層)	2層番号	基本計画素案(2層)	市民検討会議・有識者会議の主な意見
4	<b>活力と魅力あふれる力強い都市づくり</b> さらに、それぞれの地域の歴史や文化に根ざした <b>川崎らしさ</b> を大切にするとともに、スポーツや音楽などの地域資源を磨き上げ、それらが融合しながら変貌を遂げる <b>国際都市川崎の多彩な魅力を発信</b> します。こうしたことにより、 <b>都市ブランドを確立</b> し、市民が愛着と誇りを持ち、一層多くの人々が集い賑わう好循環のまちづくりを進めます。	4-8	<b>スポーツ・文化芸術を振興する</b> <b>■経済的な豊かさだけでなく、健康的でうるおいのある、質の高い暮らし</b> を求めて、スポーツや文化に親しみたいというニーズが高まっています。本市にはこれまで培われてきたスポーツ・文化芸術活動や <b>世界的に評価の高い施設もあり</b> 、これらを地域資源として活かすことは、市民同士の交流や心豊かで温かなコミュニティの形成、さらには都市としての魅力向上にもつながります。こうしたことから、 <b>東京オリンピック・パラリンピック</b> や市制100周年を <b>契機として</b> 、スポーツ・文化芸術活動を通じて市民が感動を分かち合うとともに、 <b>こうした活動をさらに促進することで、自ら暮らすまちに抱く愛着と誇りを次世代に継承</b> していきます。	<b>市民検討会議</b> <b>●「キラキラ感」のある「断トツ」のイメージづくり</b> ＜キーワード：「キラキラ感」「断トツ」「コラボ」「パッケージ」＞ 「川崎に住みたいくなるような「キラキラ感」のある地域イメージの確立を目標にすべき」「川崎のイメージを上げるために、国内的にも、世界的にも、産業・研究開発、文化・スポーツの各分野で「断トツ」のものをつくり上げることが必要。」「行政、民間がやるべきことを区別なくつなげていき、あるいはパッケージ化することで、個々の魅力が2倍、3倍になっていく発想は重要。」など） <b>●行政と市民の情報発信力の強化</b> ＜キーワード：「PR 力」「受け取る力」＞ 「PR 力は発信の側であるが、他の地域の魅力なども受け取り、川崎の魅力として取り込んでいく力を持つことが重要。」「市としての「受け取る力」のほか、市民としての「受け取る力」も必要」「海外にも通用する川崎らしさを確立し、行政からだけでなく、市民からも伝えていくことも大事。」など）  <b>有識者会議</b> <b>●最幸のまちとは</b> 「人が生きていく中で必要とされ、役割があると実感できる社会が求められる」「豊かさの拡大は限界であり、 <b>個人が豊かさを深め、それを実感できること（自己実現）、豊かさに対する価値観を転換することが重要</b> 」など） <b>●地に足の着いた文化政策の継続</b> 「川崎市の文化施策は、身の丈やマーケットに合った取組を推進しているように感じる。身の丈やマーケットに合わない文化施策は上手くいかない。今後も地に足のついた文化施策を継続してほしい」「文化施策の推進による経済効果は見えにくいかもしれないが、社会的な効用は大きい。文化施設は経費が削減されがちだが、ミュージアの音響環境などの維持や安全の確保のための維持管理費は簡単に削減しないでほしい」など） <b>●東京オリンピック・パラリンピックへ向けた戦略的な取組</b> 「東京オリンピック・パラリンピック競技大会に焦点を絞るのではなく、川崎独自のオリンピックレガシーを掲げることが非常に大事である。川崎独自のレガシーを追求すべきである。大会開催後も、障がい者スポーツをけん引するだけでなく、誰もが住みやすいまちづくりを進めて欲しい」など） <b>●川崎の強みを活かした魅力の発信</b> 「川崎大師、ミュージアム川崎、藤子・F・不二雄ミュージアムは世界に通用する文化コンテンツである。羽田空港に近いという地の利を活かし、海外から集客をもっと増やすことも可能」「ICTの活用等により川崎の多彩な魅力を分散せず、ワンストップで伝えるプラットフォームが必要」「川崎市の流入人口の多さは、都市の活気を生む大事な要素の一つである。定住促進だけでなくバランスの取れたシティプロモーションに取り組むべき」など） <b>【再掲】川崎に定住する市民と一時的に住む市民のそれぞれを大切に必要性</b> 「川崎市は人口の流入が多いが、都市の活気を生む大事な要素の一つであり、東京圏全体で考えれば、芸術・産業分野における起業家をインキュベーションする機能を担うなど、川崎だけが有している強み。定住市民ばかりでなく、若い間だけ川崎で暮らす人や、昼間に川崎で働く人なども大事にし、市外にも川崎の応援団を増やすことが重要」など）
4-9	<b>戦略的なシティプロモーション</b>	4-9	<b>■本市は、地域ごとに特色ある歴史や文化が生まれ、さまざまな文化・スポーツや、多摩川をはじめとした自然環境など、魅力あるさまざまな地域資源を有しています。近年では、交通利便性を活かしたまちづくりによって活気が生み出され、住みやすいまちとして認知されるとともに、産業技術や研究開発機能の集積が、川崎の魅力のひとつとして認識されるようになり、川崎のイメージは着実に向上</b> しています。今後、 <b>海外にも通用する抜群の都市ブランドを確立</b> し、市民が愛着と誇りを持ち、 <b>誰もが訪れたいくなる川崎</b> をめざすため、地域資源を磨き上げるだけでなく、 <b>新たな地域資源の発掘・創出に取り組むとともに、市民や企業などと効果的なコラボレーションを図り、川崎の魅力が広く伝わる戦略的なシティプロモーションを推進</b> します。	

柱	基本構想素案(1層)	2層番号	基本計画素案(2層)	市民検討会議・有識者会議の主な意見
5	<p>誰もが生きがいを持てる市民自治の地域づくり</p> <p>「まち」は、生まれ、育ち、学び、働き、楽しみ、支え合うといった先人たちの営みの上に形づくられてきたものであり、さらに将来にわたって発展させていくものです。</p> <p>地方への分権が進む中、まちづくりの主役は、そこで暮らし、活動するすべての市民、団体、企業などであることから、市民と行政の「情報共有」「参加」「協働」を基本としながら、市民が主体となって、<b>地域の身近な課題解決を促進</b>するとともに、<b>多様な人々が生涯にわたって生きがいを感じ、共に認め合い、支え合いながら個性と能力を発揮することができる地域社会</b>をめざします。</p>	5-1	<p>参加と協働により市民自治を推進する</p> <p>■急速な少子高齢化の進展などにより、地域の課題が複雑化・多様化しているため、きめ細やかで的確な対応が求められている一方で、<b>多彩な経験を持つ元気な高齢者や、未来を担う若い世代の社会貢献に対する関心が高まっており、地域で積極的に活動する団体や社会貢献活動に意欲的な企業などが増えてきています。</b></p> <p>このような社会経済状況の変化を的確に捉え、幅広い世代の参加や、<b>行政と市民・地域で活動する団体・企業・大学・他の自治体などの多様な主体との協働・連携</b>による地域課題の解決に向けた取組を進めます。</p> <p>また、市民が支え合えるコミュニティづくりに向けて、<b>身近な総合行政機関である区役所を中心</b>として、市民生活に身近な行政サービスを提供するとともに、地域の課題解決や<b>地域への愛着の醸成につながるよう、課題に応じて適切なコミュニティを捉え、地域の人材や活動をコーディネート</b>するなど、市民が主体的に進める活動を支えます。</p> <p>さらに、市民に身近な課題を、身近な所で解決する基礎自治体の役割をしっかりと果たすために、地方分権改革を一層進めます。</p>	<p>〔市民検討会議・有識者会議〕</p> <p>【再掲】<b>他都市との連携</b>        (「多摩川沿いの<b>自治体などとの都県境を越えた広域連携</b>により、災害発生時に適切な役割分担やリスク分散を図ることができるよう、日頃からよく協議しておくべき」など)</p> <p>【再掲】<b>社会的役割(生きがい)の付与と活動成果の社会還元による高齢者の健康づくり</b>        (「負担と給付の問題ではなく、元気な高齢者をどのように増やしていくのか示す必要がある。高齢者は社会的な役割や何か取り組むべきことがあるれば内発的に健康になる。その活動成果や参加意欲を社会に還元する政策も非常に大事である」など)</p> <p>●<b>高齢者や若者、企業等による地域貢献について</b>        (「市内にある大学や、昔より元気で社会貢献意識の高い高齢者は貴重な資源であり、シニアパワーと学生パワーを結びつけた取組が有効」「企業として、障がい者や子育て中の女性を対象とした雇用促進や、働きやすい職場づくり、企業スポーツの振興なども重要」など)</p> <p>●<b>地域コミュニティに必要な「求心力」や「やる気」の向上のための仕掛けづくり</b>        (「コミュニティを形成・維持し続けるためには、<u>物理的に集まれる場所や、共通の課題などの「テーマ」が必要である</u>」「役所では平等・公平主義になりがちだが、やる気のある地域に多くのお金を割り振るなど、やる気のある人たちに伸びてもらうという姿勢が、結果的に周りに良い効果をもたらす、地域全体の市民力が向上できるのでは」)</p> <p>●<b>地域コミュニティの形成の難しさと、コミュニティを活性化するための人材育成</b>        (「コミュニティの希薄な地域で、共助のしくみを創りあげるのは簡単ではない。行政が上手くコーディネートしながら地域のリーダーを育成し、地域コミュニティを活性化させていく必要があるのでは」「こども会やPTAなどの地域の役員は、持ち回りでしかもノルマ感がある。合意形成も容易ではなく、地域経営は苦勞が絶えない」「生涯学習の場などを活用して、市民のシチズンシップを育成し、市民力を向上させていくことが必要」)</p> <p>●<b>適切なコミュニティの単位による地域課題の解決</b>        (「一律に適切なコミュニティの単位を設定することは難しいが、効率的なコミュニティの運営を進めるためには、一定の目標が必要」「<u>身近な課題の解決を区でやっていくという姿勢は良い</u>。マイナンバーの導入で窓口業務が減った分、区の職員が地域にどんどん入っていくようなことができないか」「<u>地域分権を進めなければならない</u>。川崎は人口が多いので、今までより小さな単位で課題解決に取り組むことができないか」)</p>
		5-2	<p>人権を尊重し共に生きる社会をつくる</p> <p>■社会全体のグローバル化が進み、人と人とのつながりの希薄化などが進む中で、人権と平和に関わる課題も多様化しています。一人ひとりの人権が尊重され、共に平和に生きる社会を実現するために、<b>すべての人が互いにそれぞれの違いを認め合い、個性と能力を発揮できるように、平等と多様性(ダイバーシティ)の尊重</b>に向けた取組を進めます。</p>	<p>●<b>ダイバーシティ(多様性)の実現と寛容性</b>        (意識をバリアフリー化するためには、障害者が格好よく社会に出ることができ、違和感なく健常者と障害者が混じり合うことが重要)「ダイバーシティの実現には、トランス(寛容さ)が必要」など)</p>